『氏』に沸く朝鮮　　けふから受付開始[[1]](#footnote-1)

『京城電話』近年急ピツチで内に内一體の實をし來つた朝では新時代の半島人から内地人の氏をへ得るを開かれたいとのな要がし[、]府では朝治にかしい一大道標としてけふのき日二月十一日をしこの要にへることとなり[、]同日より向ふ四ケ月の間をもつて氏設の者に對し受付をすることとなつたが

この発表は全鮮忽ち異常な反響を呼び、半島文壇の大御所李光洙氏は香山光郎と[、]慶北道廰文明瑞氏は文明瑞一とそれぞれ氏創設を希望し、京城府第二教育部□副□長梁莊昶氏は全鮮八萬の同族梁氏に檄を飛ばして梁川姓に改姓せんことを提唱する等[、]早くもエピソードが華かに街の話題を賑はしてゐる。

『朝鮮藝術賞』受賞者

朝のため菊池氏の資金出によつて設定された『朝』の第一回受者は朝文の重、朝文人會々長光洙氏に決定、十日發表された。三月中に東京で式が行され及び金が氏にされるはず。【寫眞は李光洙氏】

1. 1940年2月11日付『朝日新聞』 [↑](#footnote-ref-1)